



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月3日

上場会社名 日機装株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6376 URL http://www.nikkiso.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)甲斐 敏彦
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営企画部長 (氏名)中村 洋 (TEL)03(3443)3711
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	78,739	13.9	3,910	2.6	6,002	36.5	3,104	△21.4
25年3月期第3四半期	69,133	10.6	3,810	5.7	4,397	64.6	3,949	244.6

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 6,853百万円(61.6%) 25年3月期第3四半期 4,240百万円(467.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	40.24	37.72
25年3月期第3四半期	51.19	51.18

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	155,286	64,170	40.3
25年3月期	138,345	58,558	41.4

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 62,657百万円 25年3月期 57,237百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.00	—	8.00	14.00
26年3月期	—	8.00	—		
26年3月期(予想)				8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	114,000	10.0	8,500	13.6	8,500	△5.0	5,400	△21.7	70.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名)Geveke B.V.、除外 1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	80,286,464株	25年3月期	80,286,464株
26年3月期3Q	3,162,245株	25年3月期	3,149,881株
26年3月期3Q	77,131,993株	25年3月期3Q	77,145,794株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期における当社グループの事業の状況は、工業部門では、エネルギーや航空機などの関連業界の良好な外部環境にも支えられ、エネルギー業界向けのポンプや航空機部品などの受注は好調を維持しました。また為替相場が円安基調で推移したことも追い風となりました。医療部門では、主要市場である国内において、医療機関の省力化や透析治療の高度化への需要が継続していることに加えて、消費税増税を控えた先行投資の動きもみられるなど、透析関連製品の受注は堅調に推移しました。

この結果、受注高は87,366百万円（対前年同期比15.1%増）、売上高は78,739百万円（同13.9%増）となり、また、利益面では、営業利益は3,910百万円（同2.6%増）、経常利益は6,002百万円（同36.5%増）、四半期純利益は3,104百万円（同21.4%減）となりました。

なお、四半期純利益に関しては、前年同期に、旧本社などの固定資産売却益を特別利益として計上したことによる特殊要因がありました。

◇セグメント別の状況

(金額単位：百万円)

		前第3四半期	当第3四半期	増減金額	増減率
受注高	工業部門	39,902	49,183	+9,281	+23.3%
	インダストリアル	※ 3,820	43,325	+7,505	+21.0%
	航空宇宙	4,081	5,858	+1,776	+43.5%
	医療部門	35,991	38,182	+2,191	+6.1%
	合計	75,893	87,366	+11,472	+15.1%
売上高	工業部門	34,277	42,842	+8,565	+25.0%
	インダストリアル	※ 30,171	37,172	+7,001	+23.2%
	航空宇宙	4,106	5,669	+1,563	+38.1%
	医療部門	34,856	35,897	+1,041	+3.0%
	合計	69,133	78,739	+9,606	+13.9%
セグメント利益	工業部門	1,272	1,930	+658	+51.7%
	医療部門	4,975	4,504	△470	△9.5%
	調整額	△2,437	△2,524	△87	—
	合計	3,810	3,910	+100	+2.6%

※前第3四半期のインダストリアルには、統合前の精密機器の数値を合算して表示しています。

《工業部門》

工業部門は、その取扱製品により、インダストリアル事業本部および航空宇宙事業本部の2事業本部に区分しています。

なお、昨年11月の組織改編により精密機器事業本部を解消して、粉体計測機器や電子部品製造装置などの事業はインダストリアル事業本部に統合し、新規事業の紫外線LED事業は日機装技研株式会社に移管しました。

＜インダストリアル事業本部＞

ポンプ製品は、世界各地でオイル&ガス関連投資が活発化する中で、原油生産設備向けにLEWA製品を中心に受注、売上は引き続き好調に推移しました。また、LNG関連では、受入基地で使用するLNG用ポンプを中心に受注、売上が増加しました。一方、石油化学業界向けのポンプについては、国内は市況が低調に推移する中で苦戦しました。

システム製品では、原子力発電所の稼働停止や火力発電所のフル稼働に伴う定期検査の延期などの影響により、水質調整システムは厳しい事業環境が継続しています。

精密機器関連では、国内の研究開発投資や関連業界の設備投資が回復傾向となっていることなどを背景に、粉体計測機器、電子部品製造装置などの受注、売上は増加しました。

この結果、インダストリアル事業本部の受注高は43,325百万円（対前年同期比21.0%増）、売上高37,172百万円（同23.2%増）となりました。

<航空宇宙事業本部>

航空機業界では、新興国を中心とした旺盛な需要に対応するために、航空機メーカー各社が生産機数の引き上げや新型機の開発を積極化しており、主要製品である炭素繊維強化プラスチック製の逆噴射装置関連部品などの受注、売上は順調に推移しました。また、為替相場が円安基調で推移していることも業績には追い風となりました。

この結果、航空宇宙事業本部の受注高は5,858百万円（対前年同期比43.5%増）、売上高は5,669百万円（同38.1%増）となりました。

以上の結果、工業部門の受注高は49,183百万円（対前年同期比23.3%増）、売上高は42,842百万円（同25.0%増）となりました。セグメント利益は、石油化学業界向けのポンプや電力関連事業が低調であったものの、LEWA社、航空宇宙事業などの増収効果や為替の円安効果などが寄与し、1,930百万円（同51.7%増）となりました。

《医療部門》

<メディカル事業本部>

透析装置については、主要市場である国内では、医療機関の省力化や自動化ニーズの高まりや、最新の治療法に対応した機能への需要が継続していることに加えて、消費税増税を控えた先行投資の動きが出始めていることなどから、主力の透析監視装置を中心に受注、売上は順調に推移しました。一方、海外では、財政状況の厳しい欧州などで売上は低調に推移しました。

消耗品については、ダイアライザーの売上が伸び悩む一方で、血液回路や粉末型透析用剤の売上は透析装置の販売拡大に伴って、順調に推移しました。

以上の結果、医療部門の受注高は38,182百万円（対前年同期比6.1%増）、売上高は35,897百万円（同3.0%増）となりました。セグメント利益は、円安によりタイとベトナムで製造している血液回路の輸入コストが上昇した影響などもあり、4,504百万円（同9.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の資産合計は155,286百万円となり、前期末に比べて16,941百万円増加しました。Geveke社買収に伴うのれん計上などによる無形固定資産の増加、Nikkiso Vietnam Inc. の生産設備増強、および静岡製作所の製造機能の金沢製作所への移転に伴う有形固定資産の増加などが主因です。

当第3四半期末の負債合計は91,116百万円となり、前期末に比べて11,329百万円増加しました。長期借入金の一部を期日一括返済した一方で、転換社債型新株予約権付社債を発行したことなどが主因です。

当第3四半期末の純資産合計は64,170百万円となり、前期末に比べて5,612百万円増加しました。四半期純利益計上に伴う利益剰余金の増加、株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加、および円安基調に伴う為替換算調整勘定の増加などが主因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月7日に開示した予想数値からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、第2四半期連結会計期間より、オランダのGeveke B.V. の全発行済株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,650	20,410
受取手形及び売掛金	33,429	33,568
商品及び製品	5,842	9,496
仕掛品	5,583	6,252
原材料及び貯蔵品	7,945	8,220
繰延税金資産	1,465	1,656
その他	1,994	2,931
貸倒引当金	△622	△929
流動資産合計	82,287	81,607
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,514	11,434
機械装置及び運搬具(純額)	2,980	4,013
土地	3,656	3,961
リース資産(純額)	141	101
建設仮勘定	1,925	4,542
その他(純額)	1,391	1,352
有形固定資産合計	19,610	25,406
無形固定資産		
のれん	22,115	26,012
特許権	249	388
電話加入権	42	42
リース資産	57	41
その他	2,307	7,168
無形固定資産合計	24,772	33,654
投資その他の資産		
投資有価証券	10,235	13,283
長期貸付金	4	4
繰延税金資産	264	239
破産更生債権等	17	14
前払年金費用	111	74
その他	1,058	1,015
貸倒引当金	△17	△14
投資その他の資産合計	11,673	14,618
固定資産合計	56,057	73,679
資産合計	138,345	155,286

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,620	15,361
短期借入金	8,242	8,282
1年内返済予定の長期借入金	11,137	8,112
リース債務	73	75
未払金	2,213	1,307
未払消費税等	59	6
未払法人税等	2,829	1,125
未払費用	1,617	3,301
賞与引当金	1,812	909
役員賞与引当金	52	35
設備関係支払手形	27	—
その他	3,388	4,061
流動負債合計	46,075	42,580
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	15,137
長期借入金	30,465	28,086
リース債務	134	74
繰延税金負債	2,237	4,373
退職給付引当金	446	468
役員退職慰労引当金	159	159
生産拠点再編関連費用引当金	176	164
長期預り保証金	12	—
その他	78	71
固定負債合計	33,711	48,535
負債合計	79,786	91,116
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,544	6,544
資本剰余金	10,700	10,701
利益剰余金	40,591	42,461
自己株式	△2,292	△2,310
株主資本合計	55,544	57,396
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,472	4,443
為替換算調整勘定	△779	817
その他の包括利益累計額合計	1,693	5,260
新株予約権	14	32
少数株主持分	1,305	1,481
純資産合計	58,558	64,170
負債純資産合計	138,345	155,286

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	69,133	78,739
売上原価	46,792	51,026
売上総利益	22,341	27,713
販売費及び一般管理費	18,530	23,802
営業利益	3,810	3,910
営業外収益		
受取利息	38	43
受取配当金	195	201
持分法による投資利益	37	129
受取賃貸料	110	97
為替差益	653	2,044
その他	223	346
営業外収益合計	1,258	2,862
営業外費用		
支払利息	587	525
その他	84	244
営業外費用合計	671	770
経常利益	4,397	6,002
特別利益		
固定資産売却益	2,649	5
投資有価証券売却益	—	4
受取和解金	85	—
特別利益合計	2,735	10
特別損失		
固定資産除却損	31	23
固定資産売却損	—	0
投資有価証券評価損	221	154
ゴルフ会員権評価損	0	—
事業買収関連費用	—	348
生産拠点再編関連費用	—	34
システム移行関連費用	150	—
特別損失合計	402	561
税金等調整前四半期純利益	6,729	5,451
法人税等	2,636	2,297
少数株主損益調整前四半期純利益	4,092	3,153
少数株主利益	143	49
四半期純利益	3,949	3,104

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,092	3,153
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	143	1,969
為替換算調整勘定	3	1,632
持分法適用会社に対する持分相当額	0	97
その他の包括利益合計	147	3,699
四半期包括利益	4,240	6,853
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,074	6,671
少数株主に係る四半期包括利益	166	181

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	工業部門	医療部門			
売上高					
外部顧客への売上高	34,277	34,856	69,133	—	69,133
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	34,277	34,856	69,133	—	69,133
セグメント利益	1,272	4,975	6,247	△2,437	3,810

(注) 1 セグメント利益の調整額△2,437百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	工業部門	医療部門			
売上高					
外部顧客への売上高	42,842	35,897	78,739	—	78,739
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	42,842	35,897	78,739	—	78,739
セグメント利益	1,930	4,504	6,435	△2,524	3,910

(注) 1 セグメント利益の調整額△2,524百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「工業部門」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間にGeveke B.V.の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めました。これに伴い、のれんが発生しておりますが、当第3四半期連結累計期間における当該事象によるのれんの増加額は、4,634百万円であります。